

ハチ毒アレルギー
アレルギー免疫（減感作）療法
外来受診の患者様各位

ハチ毒抗原の輸入の遅滞に伴う

治療法の変更について

平素より、当科の診療にご理解およびご協力いただきありがとうございます。昨年より、ALK 社（デンマーク）のハチ毒アレルギーの輸入が滞っております。現在まで患者様各位にご協力いただき、摂取抗原量を減量して対応しております。

ALK 社担当の話では 2017 年 1 月頃には再開という事でしたが、それが 3 月、5 月、7 月と次々と延期されている状況です。これは全世界的に起こっている問題で、すでに推奨されている対策はすべてやっておりますが、すでにアシナガバチ毒の抗原は全てなくなっております。ミツバチ、スズメバチはもう少し在庫はございますが、いずれ同様の経過になると思います。

今後は、継続的にハチ抗原を投与して行う免疫療法は、継続不能となりますので、当面は代替えの治療にシフトし経過を見たいと思います。すなわち、ハチに刺された場合のアナフィラキシー治療薬であるエピペン®を処方し、ハチに刺された場合は、直ちにエピペンを自己注射し救急病院を受診するという治療です。エピペン®は自費で約 1 万円、1 年に 1 度交換が必要です。遠方から当院まで通院されていた患者様はご自宅の近くの病院でエピペン®が処方可能である病院ならばその病院に転院いただくことが望ましいと考えます。

また、免疫療法の再開については、ハチ毒アレルギーの輸入が安定し、免疫療法の導入（入院して行います）が整いましたら、当科ホームページなどでお伝え致します。しかし、現時点では再開の予定は立っておりません。

このような状況になり誠に申し訳ありません。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

2017 年 8 月

獨協医科大学 呼吸器・アレルギー内科 知花 和行
診療部長 石井芳樹